

食品中に含まれる放射性物質に関する リスクコミュニケーションについて

令和3年4月
消費者庁

風評払拭・リスコミ強化戦略を踏まえた強化・改訂等

1. 知ってもらう（3）発信の工夫

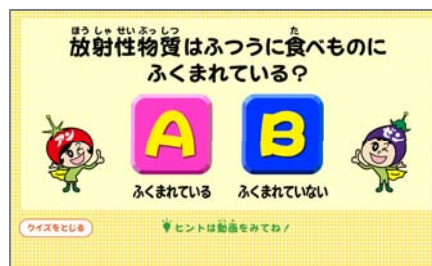
●③表現の工夫

令和2年度の関係府省連携で取り組む親子イベントについては、感染症への対策も踏まえ、親子を対象とするイベントサイトを開設し実施。

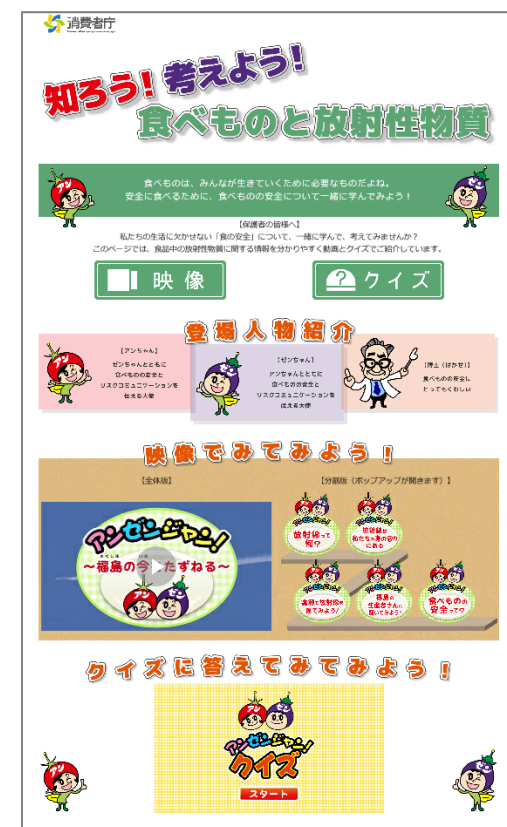
⇒ 動画及びクイズコンテンツにより親しみやすく解りやすい情報発信として、生産者の声も取り入れた福島の今を伝える内容と、放射性物質の基礎的な知識を解説。動画の内容がヒントとなるオンラインクイズコンテンツを合わせて掲載し、理解の促進を図った。



福島の生産者の取り組みを紹介



正しい理解を促すためのクイズ



2. 食べてもらう（3）②国内に向けた情報発信

●「食品と放射能Q & A」及び「食品と放射能Q & Aミニ」の改訂（R2年6月）。

⇒放射性物質の基準値の国際比較や検査結果等に関して、最新の情報に改訂。



【食品と放射能Q & A】

取組の実績と今後の取組について

実績（令和3年3月末現在）

- 関係府省や地方公共団体等と連携したシンポジウム・セミナー等の共催

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
開催数(回)	45	175	99	99	100	100	108	136	111	79	1,052
うち福島県内での回数	5	73	68	86	88	89	77	89	58	45	678



福島県食と放射能に関する説明会の様子



ふくしまの今を語る人事業の様子



一般向けWEB意見交換会

- 「食品と放射能 Q & A」約93万冊及び「食品と放射能 Q & A ミニ」約13万冊の配布（これまでの累計）

今後の取組

- 関係府省と連携した幅広い世代を対象とした意見交換会やイベント等の開催。福島県と共催する「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業や、地方公共団体によるリスクコミュニケーションの支援等の取組。
- 消費者意識の実態調査を踏まえ、より分かりやすい情報発信に努める。
- 食品の安全確保の基本的な考え方※の普及に努め、消費者の理解増進に努める。

※食品安全は量の問題であり、ゼロリスクはないこと。食品には様々な危害要因があり、そのうちのひとつとして放射性物質があること等